

10月2日(土)・大会2日目 11:00~12:20 (B会場:1002) (80分)

●セッション【13】

「越境学習」

* 石山恒貴(法政大学大学院政策創造研究科 教授)
小山健太(東京経済大学コミュニケーション学部 准教授)

*セッション・リーダー

[概要]

近年、越境学習という考え方が注目を集めています。本来この概念は、活動理論における越境、もしくは実践共同体の理論に基づいており、組織間の相互作用・交流について焦点を当てたものでした。しかし日本においては、個人がホーム(自身が主観的にみなす、居心地のよい慣れた場)とアウェイ(自身が主観的にみなす、居心地が悪く慣れない場)を行き来することで暗黙の前提や価値観を批判的に見直す、という個人の学習の側面に焦点が当たってきました。

個人学習という観点で発展してきた日本の越境学習ですが、研究が進んだことによって、自身が属する組織にどのように越境学習で獲得した知識を還元するのか、あるいは越境学習を迎える立場の被越境学習者に学びは生じないのか、という新たな問い合わせが発生してきています。この問い合わせに関して、本セッションでは登壇者2名の報告の後に、フロアの参加者も含めてそれぞれのご報告についての質疑とディスカッションを行う予定です。

<報告タイトル(予定)>

- ・石山恒貴「越境学習の組織への還元ーその効果と課題ー」
- ・小山健太「被越境学習者の学びー越境学習の組織への還元の促進要因ー」

[参加者へのメッセージ]

日本では個人の学習として発展してきた越境学習ですが、個人としての越境学習者の学びを組織学習にいかすことはできるのか、という問い合わせが発生しつつあります。本セッションでは、この新しい問い合わせ、「越境学習者の知識の組織への還元」「被越境学習者の学び」という2つの観点から考えていくことを目的にしています。

昨今の不安定で連続的に変化する時代環境だからこそ重要度が増しているこの問い合わせについて、フ

ロアの皆様と共に考えていきたいと思います。ぜひ、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。